

## 平成25年度 第23回全国女性建築士連絡協議会 アピール

公益社団法人日本建築士会連合会  
女性委員会

全国女性建築士連絡協議会は、平成2年に第1回目を東京で開催して以来、各地域での開催を交え、今年で第23回目を迎えました。

これまで、女性委員会では、建築の専門家であり、また生活者である女性の視点を通して、様々な提言を行なって参りました。今まで取り上げてきた高齢者の住宅問題や子供のための住環境、環境に配慮した住まい、まちの歴史や景観など、居住環境をめぐる課題は、めまぐるしく変化する社会状況にあって、一層慎重な対応を必要とする重要な課題となって参りました。

また、2年前の東日本大震災以降、私たち建築士は、被災地で様々な支援活動を実施して参りました。そしてその活動は、京都大会から全国大会へと継承され、今後の防災に関する取り組みの重要性を再認識いたしました。

以上のような状況を踏まえ、本年度は、メインテーマ「地域と共生する居住環境づくり」のもと、「見直そう、これからの住環境と暮らし方」をサブテーマと致しました。

1日目の300名を超える女性建築士が一堂に会する全体会では、基調講演に建築家の天野彰氏をお迎えし、「江戸に学ぶ狭楽しさ」～貴女だからこそできる“真”の永久居住空間づくり～をテーマにご講演いただき、引き続き、高齢者・障害者の居宅サービスの受給に適した住宅事例調査の進捗報告、及び、各県の活動発表、被災地における現状報告と取り組みを発表していただきました。

2日目の分科会では、「震災① 防災への取り組み」「震災② ボランティア活動の報告と取り組み」「歴史的建造物と建物再生」「環境共生住宅と素材」「景観まちづくり」「子どもと住環境」「高齢社会」「集まって住む」の8つのテーマに分かれ、それぞれについて熱心に討論をいたしました。

それらの成果として、以下を、今年のアピールとして発表致します。

1. 私たちは、今回の協議会を通し、女性建築士として、地域に根付いた活動を行ない、次世代を担う子どもたちや、生活の礎を築いてこられた高齢者にとって、安全で安心できる暮らしを提案していきます。
2. 私たちは、今回の基調講演を通して、専門家及び生活者としての視点から、それぞれの地域での未来の暮らしを見据えた「地域と共生する住環境づくり」を目指します。
3. 私たちは、継続して行なってきた東日本大震災の被災地からの報告を生かし、支援ネットワークの有効性や、防災についての知識や環境づくりの情報を公開し、同時に次世代の環境を守るため、低エネルギー社会の構築を目指します。
4. 私たち建築士は、異業種の専門家との連携の重要性を認識し、地域団体、企業、行政等の専門家と協働して、誰もが暮らしやすい社会の実現を目指し、諸活動を実践します。